

TOREK 自然農法 ホットニュース

第 194 号 2014. 6. 25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

クラフトフェアまつもと スタッフ 中村竜児

5月25日(日)、第30回目の松本クラフトフェアに出展された宮澤弥生さんのお手伝いに行きました。1500 店もの応募の中から厳選された 300 店とのことでした。事前に弥生さんのお話を聞き、その思いの高さに足手まといにならないよう、こちらもしっかり準備していかねばと、自然農法の作物、無添加の弥生さんのお菓子の素晴らしさをどのように伝えるか、事前に妻と話し合いました。

当日、早朝から盛り上がりを見せる会場、お店の看板は「ジョリフィーユ」ではなく「無施肥・無農薬栽培のお菓子工房」となっていて、とても目立ちました。来場者がその看板を読みながら、こちらに歩いてくる姿は印象的でした。

試食のマドレーヌやほうじ茶を口にされた方々が「美味しい！」と感激される姿に、逆にこちらが驚き、うれしく感じました。ほうじ茶を一口飲んだとたんに目の色が変わり、「これどこで買えるんですか？」と聞かれたり、「体にスツと入っていく感じがするでしょ。食べると幸せな気持ちになれるお菓子なんです」という説明に、「私も幸せな気持ちになりたいです」とクッキーを 4 袋も購入された方もいました。また、「井上百貨店(長野県松本)で堀さんのお米を買いました」という方がいらしたり、何人かの方に「自分は〇〇から来たんだけど、自分の地元で自然の野菜を売っているところはないか」と質問され、安心して食べられるものを求めている人が多いことを感じました。

外国の方も多く来られて、私の拙い英語でほうじ茶を勧めると、「フレッシュで美味しい」と喜んでくれました。お子さんがアレルギーをもっているようで、材料に何を使っているか注意深く質問されました。最後のほうじ茶プリン 1 個を、仲睦まじいご夫婦がお買い上げくださいました。私たちは思わず、「ありがとうございます！」と拍手をしました。「ほうじ茶プリンを買って拍手をされたのは初めてです」と笑ってください、最後まで楽しく過ごすことができました。

「去年、ほうじ茶プリンが美味しかったから、今年も楽しみにして来ました」という方や、みかんジュースゼリーのファンの方、井上百貨店の店員さんも来てくださり(東京東中野の頒布会にも行きたいとのこと)、弥生さんのお菓子を通して心の交流ができたような気がして、とても刺激的でした。ただ、あまり深い自然農法の話ができなかったのが、自分の未熟さを感じた点でした。普段からアンテナを広げさらに勉強し、体験して、もう一歩向上し、来年またあの場に立てたらと思います。



竹内さん

各地の圃場訪問！ 普及員 渡辺大祐

5/20 は長野県(堀さん・竹内さん)、5/21 は栃木県(五十嵐さん)と群馬県(小林さん)、6/4 は兵庫県(畑さん)と、TOREK 自然農法の実施者 5 名の圃場を訪れました。

今年は春先から気温が低く、雨が少なかったために、作物の生育が遅れていると聞きましたが、情報交換の中で、世間自然農法が広まっていることを確認し合うこともできました。

◆5/20 堀政則さん— 田植えは 5 月末～6 月初旬、もち、コシヒカリ、蒼龍の 3 種類。今年は 1 本 1 本を見ていくという心で、苗数は減らしたとのことでした。この日、あぜぬり、田んぼの水路掃除のお手伝いをしました。また、千葉県船橋のミニ頒布会の来場者が自然農法にとっても関心を持っていたこと(次の記事参照)を伝えると、「とても力を頂いた。今年のビックニュースだ」と喜ばれました。

また堀さんが聞いた話ですが、ある農家さんが「俺も無肥料でやってみるかな」と話すと、別の農家さんが「お前、金賞(国際食味分析鑑定コンクール)ねらってるな」と言ったとのことでした。

◆竹内節子さん— 多くの作物をととてもきれいに作付けされていました。畑にわさび菜のとうだち菜がありました。葉は食せるからと、自然農法の作物を最後まで無駄にしない竹内さんに感動しました。

◆5/21 五十嵐正吾さん— 田植えは 5 月下旬。日照り続きのため、あぜがひび割れてしまったそうです。様々なお話を聞かせていただいた中で、心に残ったお話がありました。

「自然農法を実施していくことは、STAP 細胞を見つけるよりもすごいことなんじゃないか。今は自然農法の素晴らしさがあまり理解されていないから、私たちが生産をまかなえているが、世間が理解しはじめ、求めるようになったら、とてもまかなえきれない。自然農法を実施することは本当に大事だ」と。

◆小林均さん— 近くに妙義山があり、木々に囲まれた小林さんの田んぼは、霧がかっていたせいもあるが、とても神秘的な場所に感じました。小林さんは、お父様が慣行農法でされていた田んぼを受け継ぎ、自然農法に切り替え、「自分の代から自然農法を後世に繋げていきたい。自然米の素晴らしさを、まずは家族に食べて、感じてほしい」と熱い気持ちを語ってくださいました。

◆6/4 畑匡昭さん— 「去年増収の原因として、これが良かったかもしれない、と思う方法があつて、それを実演します」と、苗代に連れて行っていただきました。着くなり、草刈り機を持ち、苗の上部を刈り取りました。実験的に、葉をなくすくらい刈った部分(髪型で言うとスポーツ刈り)もありました。「なぜ、そうするのですか？」と聞くと、「日水土ですよ！ 苗の成長部分(根と葉の始まり部分)に太陽を当てるためです」と教えてくださいました。葉の光合成が大切だと思っていたのですが、それもそうですが、「成長部分」がポイントと教えていただきました。畑さんの田に自然農法をしたいという方が来ていることや、セミナーなどで講演されていることを伺いました。



船橋ミニ頒布会！ スタッフ 渡辺由美

5月10日(土)、快晴の中、船橋生産グループの第1回ミニ頒布会が開催されました。会場はなんと畑です。無施肥無農薬 16 年目の畑。毎月のスタッフの会合で、岡田茂吉師の提唱する自然農法の素晴らしさや、一般農法との違いを話し合い、多くの方々への普及を目標に取り組んでいますが、百聞は一見にしかず、実際に畑を見学し、採れた野菜を食し、関心を持っていただく良いのでは、との思いが企画のきっかけです。

初めてのことで、何度も打ち合わせをし、意見やアイデアを出し合い、やるからには良いものになりたいという熱い思いに満ちていました。チラシを作成し、畑周辺に 400 部配布、またミニとはいえ、来場者がガッカリしないようにと、他の生産者の方々にも作物のご協力を頂きました。

当日は近隣の方など 55 名の来場者があり、自然農法のお茶や作物の試食に、「美味しい」と笑顔になり、熱心に話を聞かれていました。また畑の中を歩き、無施肥無農薬で本当に作物が出来ることに驚かれ、感心され、「気持ちがいいね」「きれいね」と感想を頂きました。近所の女性は「楽しみにしていたのよ、孫がアトピーだから、食べ物に気をつけているの。今度いつやるの？」と聞いてこられ、また「次の開催日が分かったら連絡してください」と帰られた方も多数いらっしゃいました。

「現地でやることに意味がある」「畑のショールームにしましょう」との思いで準備を始めた答えが、ここにあるような気がしました。今度はどんな出会いがあるか楽しみです。

お知らせ 自然農法頒布会 6月29日(日) 東中野会場 10:00~ (売り切れ次第終了)
自然農法頒布会 7月16日(水) 鎌ヶ谷会場 11:00~ (売り切れ次第終了)

無施肥無農薬栽培物の販売予定 7月3日 於：伊都能売会館
生産者の方々が直接販売されます。 東京都八王子市長房町 57 042-665-6369

- 市川生産グループ：煎茶、ほうじ茶、みかんジュース
- 中島農園：サヤエンドウ、梅、梅干
- きじま平自然農産：甘納豆、そば粉、納豆
- 菜園金野：インゲン、玉ねぎ、トマト、ナス、ズッキーニ
- 長柄山自然農園：卵
- ジョリフィーユ：自然のみかんジュースゼリー、ルバーブのチーズケーキ、カスタードプリンほか

お問い合わせ先：編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: naturefarming@torek.jp
TOREK 活動のホームページもご覧ください。 http://www.torek.jp